

黒部市歴史民俗資料館 第13回特別展「黒部川の洪水・治水のあゆみ」紹介 No.3

昭和9年7月9日午後から停滞した梅雨前線により降雨が始まり、夕方より豪雨となり連日降雨が続きました。12日に黒部川左岸の下立・下村・大橋・若栗・出島の各堤防、右岸の浦山新の堤防が決壊しました。

出島の堤防を決壊した濁流は、若栗からの濁流と合流し、その主流は二流に分かれ、一流は吉田川沿いに海に注ぎ、一流は生地町の中央を流れました。これにより、村椿村では出島神社や六天神社も流されて、村のほぼ全域が被害を受け、約300戸以上の家屋が浸水しました。生地町では町の中央にあった中橋も流され、約700戸以上の家屋が浸水しました。

この昭和9年7月の洪水に苦しんだ流域の町村は、黒部川の直轄河川編入について内務省に陳情しました。そして昭和12年5月黒部川は国の直轄河川となりました。

これらの写真は、昭和9年の生地町を写したものです。一部展示していないものがあります。



(展示室 昭和9年7月12日の洪水 当時の生地小学校の先生)



(展示室 昭和9年7月12日の洪水 生地町四十物町方面、大町方面を望む。右奥に中橋があったが流失しました。)



(昭和9年7月12日の洪水 流出した中橋を望む) 展示なし



(昭和9年7月12日の洪水 生地町の生地鉾泉近く) 展示なし